

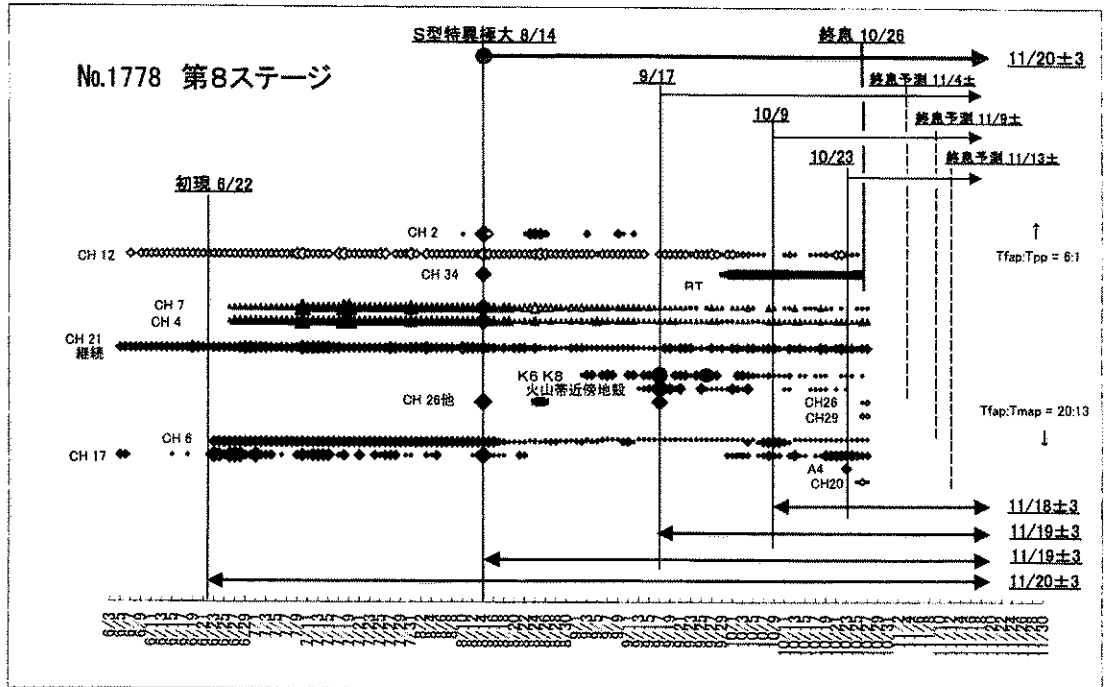
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続地殻大型地震推定前兆 現況続報 11月17日以前発生は否定

極大兼初現	極大予測
08/14	09/17
09/17	10/09
10/19	10/23
10/23	11/02±
11/02	11/08±
11/08	11/12±
11/12	11/15±
11/15	11/17±
11/17	11/18±

※各極大が次極大の初現と仮定し、 $T_{fap}:T_{map}=20/13$ 経験則を使用しますと、11/19±が示されます。10/23極大迄は確認済ですが、同様な関係が続くと、上記右時期に極大出現の可能性有。11/19で止まる



No.1778長期継続特殊前兆群の続報現況報告です。2008年07月から現在までに8ステージに別れて、段階的に変化してきた前兆群です。第7ステージが示した、8/14が第8ステージの最初の極大（S型特異複数観測装置に出現）となっています。

第8ステージの継続前兆初現を6/26とし、8/14極大に対応させた場合は、11/13±の可能性も計算されました。しかし、これが正しい場合に、10/21±に幾つの観測装置の前兆が終息することが推定されました。これが確認できないと11/13±は否定されることとなります（報告記載済）。E-mailとFAXで日々配信しております「地震前兆検知実験観測情報」では、既に報告済ですが、10/21±には前兆の終息変化が認められた観測装置は無く、誤差を含めた期間中にも、前兆終息は認められませんでしたので、6/26初現～8/14極大～11/13±発生の関係認識は誤りであることが明確となりました。

次に可能性が考えられる関係は、初現6/22～極大8/14の関係です。この場合は、11月20日±が計算されます。

第8ステージには、ピークが幾つか認められます。8/14の他に、9/17・10/9 が認められました。各ピーク時期には複数観測装置に前兆が出現していますが、関係する前兆の出現形態が特殊で、明確な初現が認識できません。そこで、各極大を次の極大の初現と仮定して計算してみました。

08/14初現～09/17極大⇒ $T_{fap}:T_{map}=20:13$ 使用⇒11/19±
09/17初現～10/09極大⇒ $T_{fap}:T_{map}=20:13$ 使用⇒11/19±
と、6/22初現～8/14極大の関係からの11/20±と同様時期が計算されました。またこの関係で進んだ場合、11/19±発生が出る関係としては、次の極大が10/23±に出現する可能性が示唆されました。実際、10/23のみに秋田観測点のA4に特異状態が長時間出現しピーク。前後に八ヶ岳CH17に24時間特異が出現を確認。
10/09初現～10/23極大⇒ $T_{fap}:T_{map}=20:13$ 使用⇒11/18±
この関係が正しく、このままの関係で極大が出現する場合は冒頭左上枠内記載のとおり時期にピークが出現することになり11/19で止まることとなります。11/19±時期を示すことで正しいか否かは11月中旬まで観測して確認したいと考えます。続報、

◆推定領域：右図 太線領域内=大枠推定領域を示す。
斜線領域内=可能性が考え易い推定領域を示す。

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：実際の前兆終息変化を確認して推定予定
現状の段階で考えやすい可能性は=11月19日±1
(今後の観測で修正の可能性有 続報注意)

◇推定地震種：震源浅い(数km~20±km) 日本列島の地殻地震
◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (又は午後6時±3時間)

